

CECOP 建党

The Congress of Establishing Communist Party

共産主義者の建党協議会

発行人●管野大二郎

東京 東京都渋谷区道玄坂1-15-3 プリメーラ道玄坂407-215

セコップ(CECOP) ☎ 03 (477) 2850

関西 大阪市旭郵便局私書箱42号

九州 福岡市博多郵便局私書箱138号

●ギャザリングネットワーク[創造と連帯]●

思うに、希望とは、もともとあるものだともいえないし、ないものだともいえない。それは地上の道のようなものである。もともと地上に道はない。歩く人が多くなれば道になるのだ。

魯迅『故郷』1921年1月

道とは何か？ それは道のないところから踏まれてできたものである。茨ばかりのところから刈りひらかれてできたものである。以前にも道はあった。今後も永遠に道はあるはずだ。人類にとって寂寞であろうはずはない。それは生命は進歩するものであり、楽天的なものだからだ。 魯迅『熱風』随感録66「生命の道」1919年10月



★建党協発足、人民の大海に建党の舟を出せ！

★味方の四分五裂状態を打破し、単一の革命党をめざし、全国の共産主義者、労働者団結せよ！

発足のあいさつ

寺尾五郎

建党協議会代表

われ 足総会を持ちました。

予備会議や準備会など三年余の過程を経て、今ここに「共産主義者の建党協議会」として発足し、日本における社会主義革命の主体形成、革命の党の結成をめざし、その下支えの役割を果すべく、微力を傾注して奮闘することを、内外に公表します。

しかしこの発足は、ある固定した閉ざされた組織としての「建党協」の発足ではなく、いわんや「建党協」という名の「党」の発足でもありません。今後ますます多方面と協力しあい、ますます開いてゆき、ますます協議の輪をひろげてゆく運動を、今までのような準備会的な水準ではなく、本格的に展開するということです。

日本 の社会主義革命を目ざす闘いにおいて、当面

その

ためにわれわれは当面この協議会という形式において事を運ぼうとしています。だがこの協議会は、一つの課題や一つの運動のための協議会、懇談会、連絡会ではなく、あくまでも建党についての協議会です。したがって、当然にも、結党準備会的な要素をほらみます。われわれ建党協は、単一の革命の党を目ざし、より広汎な人びととの協議を拡大しつつ、実質的な結党準備会としての機能を追究する組織であると自己規定しています。われわれは、より開きつつより調えるという、遠心と求心の二重の課題に身をさらすつもりです。

一口に大合流と言っても、事は革命と党に関するところからであって、それには一定の規程が必要であり、その一つの素材として、われわれの拙い私案を、『決意』と『組織テーゼ案』として提出しました。さまざまな異見があるとすれば、大いに結構、それが革命の志に燃えているものならば、われ

われはどんな意見でも聞き、学ぶつもりです。その異なった意見を闘わせすり合わせ、協議しようではありませんか。

しか

し、事は急ぎます。日本の共産主義運動をこのままで二〇世紀を過ごさせてはなりません。具体的に言います。われわれはひとまず発足しただけのことであり、よりまとまった形を秋ごろに、さらにより大きなまとまりを経て、一年か二年後には、より確固とした組織を展望したいと思えます。荏苒(じんぜん)日空しうして、事がついでることを恐れます。

この道は、日本共産主義運動の歴史と現状だけではなく、国際共産主義運動の現実からしても、まさに困難でありましょう。しかしわれわれは、これまでの革命の先達たちの志のなかに生きていくと自負します。嵐を恐れませんが、嵐の中からこそ固いスクラムが必要で

建党

協発足にあたり、重ねて訴えます。全国の共産主義者、先進的労働者の皆さん。時代はいま、われわれ一人ひとりの狭い経験などでは越えようもない大きな転換期にあります。労働者階級と人民の利益のみを中心し、その闘いの汗と涙と息吹きをもって、一人でも多くの同志のみなさんが、われわれと行をともにされることを。

中曾根自民党政府がたんに退陣するのか、それとも、人民大衆の闘争によって打倒されるのか、それが決定的なのだ。

ガイドライン安保粉碎！戦争遂行国家づくりを粉碎せよ！国鉄秋期決戦に起とう！

同時選挙を中曾根 自民党政府の墓穴に

現情勢における我々の課題

決定的局面の86政局 1

五月八日の衆議院議席の定数は正をめぐり議長裁定で、いったんは「死に体」に追い込まれたが、結局は同日選挙にもついで中曾根首相の政治手法と執念をおおりに恐るべきものがある。無理が通れば道理がひっくりかるといわれるが、中曾根首相は相対的に行進について言った言葉を「使えはまじい」から「クレーター」である。しかしこの過程は、中曾根政府の時代がいつに終焉を迎えたとの表現にすぎない。中曾根にしては、同時選挙の放棄が即退陣を意味していた以上、ごり押しをしてもその断行に躊躇すむほかに選択の余地はなかった。自民党選挙という皮肉な日程を導くはかなったのも、その窮地の深さをものごとくしている。

しかも同時選挙が中曾根の政権維持を保障するとは限っていない。世論調査にみる高い支持率にもかかわらず、選挙実施にいたる強引な政局運営への批判は厳しく、いわゆる円高をめぐる産業界と自民党の対立は強まっている。加えて自民党の世代交代ブームとニューリーダーの次期政権を担う抗争の結果として、衆議院への保守系立候補者は、四百一十四人に減り、八〇年のダブル選挙の際には、二百二十人の立候補で自民党は再選したが、八三選挙では三百八十人を立てた結果、議席三十四を減らした。よほどの党内主導権が確



「ヤス、円高ゴメンネ……」
「ダメダ。信じて」

両院選挙から秋にむけての政治スローガン

- ☆中曾根自民党政府打倒。戦争遂行可能な国家づくりを崩そう！
- ☆新国家主義にたつ改憲に通ずる「戦後決算」政治と行革による反革命的な国家統合に断を！
- ☆アメリカの圧力の下に円高誘導などを進めた自民党はその経済失政の責任をとれ！労働者・人民の生活向上本位の経済を獲得しよう！
- ☆アジアの軍事独裁政権へのテコ入れと、「経済協力」の名によるアジア人民からの収奪をゆるさない！
- ☆ガイドライン安保粉砕・日米韓軍事一体化を許すな！チームスピリットとリムバック演習の中止、日米共同作戦計画の破棄、今秋の日米3軍統合実動演習の阻止。すべての基地の撤去！
- ☆トマホーク積載核戦艦ニュージャージーの寄港・韓国艦船の日本訪問阻止！アジア反核闘争の前進を！
- ☆「防衛行革」の名による軍事大国化計画の即時停止、軍事費の大幅圧縮！
- ☆SDI計画への協力と軍産官学複合体制の推進拒否！
- ☆「国家改造計画」としての行革粉砕。国鉄の分割・民営化を許すな
- ☆国会は国鉄の経営状況とくにその資産評価について国政調査権を発動せよ。全国のすみずみの公聴会の開催を！
- ☆選別と国家主義化をめざす教育改革と地方行革を許すな！臨教審を解体しろ。教育と地方自治をわれわれの手にとり戻せ！
- ☆政令政治による国政の全面再検討を！国家秘密法案の上程を許すな。刑法・監獄法の改悪反対。人権無視の管理・抑圧体制粉砕！
- ☆君が代・日の丸・靖国問題を使つての天皇制・天皇制イデオロギーの強化粉砕！皇太子の訪韓・天皇の87沖縄訪問の阻止。右翼民間白色テロの粉砕！
- ☆白保・三宅島・下北・泉州・えびの・池子などと三里塚での国家権力との闘いを支持！
- ☆働きやすい労働者のすべてに安定した職を！大幅賃上げ、労働時間短縮、職場労働権の全面保障の実現。労働者は労組法・労基法の改悪阻止に起て！雇用派遣事業法の廃止。国家・企業優先の男女役割分担支配を許さず、真の男女雇用平等と職住近接政策の実現を！
- ☆増税反対。社会福祉の切り捨て反対。老人に安心できる公的保障を！
- ☆チェルノブイリ原発事故を弾劾！すべての原発をただちに止める！核のゴミの野放し法の即時廃棄！
- ☆農業の自立。安定した農業経営の保障を！
- ☆在日外国人への指紋捺捺制度の廃止を！
- ☆全民労連の結成策動阻止。官公労働戦線の上からの「統一」による体制内化反対。総評労働運動の階級的強化と再生を！
- ☆選挙制度の抜本的改革を。政治不正をただす弾劾人民委員会の設置を。政治を赤じゅうたんから解放せよ！と野党の野合を許さない！
- ☆米帝の反テロを口実にする人民解放への抑圧とLIW（地域強烈戦争）戦略に断固として反対しよう！
- ☆反帝・反独裁の韓国民衆の改憲解放闘争と南北統一の闘いを全面支持！フィリピン人民革命の前進に連帯しよう！
- ☆第三世界地域のすべての反帝国主義・反独裁闘争への支持と連帯を！
- ☆反帝人民協商を開始しよう。11月27日のガイドライン安保調印日に反安保の大統一行動を組織することをめざし、さらなる闘いの積極的・自覚的・計画的な前進と発展を！！

だが中曾根政府をこつた窮地に追いついては、中曾根内閣の政治路線の継続性が保障され、中曾根自身

もおそらく田中角栄にかわるキングメーカーの位置に立つことができよう。逆に労働者階級と人民が中曾根自民党政府を打倒しきるなら、「新国家主義」を掲げた中曾根政府の「戦後決算」の政治、とりわけ当面の階級防衛の環である国鉄の分割・民営化攻撃、臨教審の教育改革、ひろく行革攻撃路線をきり開いていく大きな突破口をかならず切りひらいていくことができる。

わかれは断固として中曾根内閣がぐらつき、自民党が抗争しあつていくチャンスにつけていこう。両院選挙を中曾根自民党政府打倒の政治決戦として闘うとともに、野党の第二自民党

は、しだいに多くのひとの目にもわかれるものになり、労働運動の解体・再編成がすすむ一方では、池子・三宅島・石垣島・下北・泉州・えびの野として三里塚を全国各地でさまざまな自立した人民の抵抗と反響の闘いがひろがり出している。小春日和とされてきた日本経済の相対的安定のもとに隠された経済的諸矛盾も、いわゆる円高旋風などの前もたからさまざまのうちに、階級闘争の前進への物質的諸持てる候補の選挙のために協力し、

天皇即位六〇年式典を強行し、サミットを成功させて政権継続へと狙っていた中曾根に首相の思惑が一筆に瓦解しかねないところにつきまされたのはなぜか。それは究極的には、アメリカ帝国主義の危機とそれに由来する日米矛盾が、中曾根内閣の対米協調の政策と努力をこえて鋭いものに発展してきているからである。

八五サミットと八六サミットとの間におきた七一年ぶりの米国の純債務国への転落は、ドルを中心とした帝国循環・パックス・アメリカナナの時代の終わりの始まりを告げるものであった。基礎通貨国としての特権を利用してドルを垂れ流し、ドルの実体価値をみすから落としたが、軍事面での対ソ優位と深刻な財政危機の結果として高金利を適用して、ドル高を維持してきた米国の経済的「強さ」の虚構は、債務国への転落という現実のまえに破綻した。それが昨年九月のG5会議の意思である。それ以来米

国はドル安移行を放棄するとともに、この新局面にたつてのアメリカ再生戦

中曾根とポストナカ ソネの串さしを

ここから精結されるわれわれの政治的戦略の第一は、まず中曾根政府を打倒し、八〇年以來続いてきた政治局面に風穴をあけ、大きな流動化のきつかけをつくりだすことである。この点でブルジョア議院主義の本質的さまざまな性は明らかだが、この際の選挙闘争もこの当面する政治要求を明確にし、その立場から中曾根打倒にむけて支持できる候補の選挙のために協力し、

その要求実現めざす人民各層の闘いの発展と組織化を図ることが肝要である。しかし第二に、中曾根政治にかつて登場してくる自民党政治が、中曾根政治を引き継ぎつつ、中曾根内閣でも

ましてアメリカ帝国主義の対日戦略に迎合的な政策を遂行して行く可能性があり、しかも親帝国主義勢力に頭蓋さえてきている大部分の野党勢力の政治的幻想を一段と高める危険性があることについては警鐘を労働者階級と人民にむけてうちはらし、それと継続的に闘う必要とその方向を指し示さねばならない。

それは基本的には、アメリカ帝国主義の危機の展開のテンポの速さ、それに根拠づけられている日米摩擦の拡大が、日本帝国主義の国家主義的の上部構造確立のスケジュールの計画的遂行をさえ攪乱する脅威と局面をうみだしてきているというところを意味している。そしてそれがまた、これまでのドル高・円安によって為替ダンピングで支えられもってきた日本経済の異常発展と安定成長を、にわかに、かつ深刻に揺さぶらだしてきているのである。中曾根内閣が遂行しているこの「危機」の本質を、われわれは一点のかけりもなく把握し、直視する必要がある。

だが中曾根政治は、その国内的な階級政治基盤だけでなく、アメリカとの間でも事態の発展の間に二つの矛盾を暴露するにいたつたといえるであろう。一つは、中曾根内閣の「国際国家」が帝国主義日本の世界における地位の向上を図るものであったのに対し、米国の日本に求めたものが、あくまで米戦略・米多国籍企業利益の補完体制であるべきだとされてきたことから生まれて来た矛盾、二つは、帝国主義国家構造の構築のために必要とされたいわゆる行革路線の遂行、日米摩擦打開のためにアメリカ帝国主義から強求められるようになった「国内需拡大」の経済路線の必要との矛盾で

ある。

中曾根政府の基盤 の動揺と矛盾 2

中曾根政府はその成立以来、一貫してアメリカ帝国主義の意図に忠実であり、その信任を担保しつつ、「国際国家化」の名のもとで、世界第一級の経済力をもつようになった日本帝国主義にふさわしい内部構造、すなわち戦争遂行可能な国家体制づくりをめざしてきた。そのために強行されてきたのが「国家改造計画」としての行革路線であった。

しかし「新国家主義」を掲げた中曾根内閣の「戦後決算政治」路線の危険さは、しだいに多くのひとの目にもわかれるものになり、労働運動の解体・再編成がすすむ一方では、池子・三宅島・石垣島・下北・泉州・えびの野として三里塚を全国各地でさまざまな自立した人民の抵抗と反響の闘いがひろがり出している。小春日和とされてきた日本経済の相対的安定のもとに隠された経済的諸矛盾も、いわゆる円高旋風などの前もたからさまざまのうちに、階級闘争の前進への物質的諸持てる候補の選挙のために協力し、

天皇即位六〇年式典を強行し、サミットを成功させて政権継続へと狙っていた中曾根に首相の思惑が一筆に瓦解しかねないところにつきまされたのはなぜか。それは究極的には、アメリカ帝国主義の危機とそれに由来する日米矛盾が、中曾根内閣の対米協調の政策と努力をこえて鋭いものに発展してきているからである。

八五サミットと八六サミットとの間におきた七一年ぶりの米国の純債務国への転落は、ドルを中心とした帝国循環・パックス・アメリカナナの時代の終わりの始まりを告げるものであった。基礎通貨国としての特権を利用してドルを垂れ流し、ドルの実体価値をみすから落としたが、軍事面での対ソ優位と深刻な財政危機の結果として高金利を適用して、ドル高を維持してきた米国の経済的「強さ」の虚構は、債務国への転落という現実のまえに破綻した。それが昨年九月のG5会議の意思である。それ以来米

国はドル安移行を放棄するとともに、この新局面にたつてのアメリカ再生戦

略の展開に全力を傾注した。その第一は、米が主導する国際管理の下におこうとしたのである。中曽根首相のために、円レートを何とかがしてやにはなかつたといふべきだろう。

新たな展開みせる アメリカの反革命戦略

5

第一は、こうした荒々しいアメリカの本位の再生戦略が必然にはならず、一方ではSDI計画への協力、もう一方では第三世界地域経済への追加的な打撃が生むに及ばない、これら地域での一層の政治不安定と革命的情勢の発展に對して、三月十四日のレーガンの特別声明が明らかにしたように、右の全体主義にも反対するといつていい分、全世界的に「親米・反体制勢力」を育成・強化する戦略に力を入れたことである。この戦略を引き出したという適用したのが「フリービーン・ハイチ・ニカラグア」の軍事力もって「リベラ」への国家テ

ともある相互抑止と隠然たる結託の関係を無視すべきではない。しかも経済力における連年の停滞、それに加え最近のチェルノブイリ原発事故は明らかに連年の権威とその「口先の社会主義、実体として帝国主義」の本性を暴露した。われわれはソ連の事故をめぐる態度を厳しく弾劾することも、それを利用してアメリカの露骨な反共・反革命策動に警戒を高めねばならない。

国労の団結と命運かけて

国鉄政治決戦へ

「もはや国労では、新会社へは行けませんし、新会社には国労運動はいらないのです」「高崎鉄道管理局の非現実的ボジションをそれだけ強めるものであった。こうして日本をいよいよ喜ばせたその上で、サミットを舞台に「国際経済政策調整」の名のもとに日本経



青年は秋期政治決戦の先頭に起とう。

「もはや国労では、新会社へは行けませんし、新会社には国労運動はいらないのです」「高崎鉄道管理局の非現実的ボジションをそれだけ強めるものであった。こうして日本をいよいよ喜ばせたその上で、サミットを舞台に「国際経済政策調整」の名のもとに日本経

ともある相互抑止と隠然たる結託の関係を無視すべきではない。しかも経済力における連年の停滞、それに加え最近のチェルノブイリ原発事故は明らかに連年の権威とその「口先の社会主義、実体として帝国主義」の本性を暴露した。われわれはソ連の事故をめぐる態度を厳しく弾劾することも、それを利用してアメリカの露骨な反共・反革命策動に警戒を高めねばならない。

第一は、中曽根自民党政府が最後のあがき、政治権力掌握の担保としてかならず強行しようとするに違いない。国鉄の分割・民営化を許さない階級闘争戦線の断固たる構築を、労働者階級のスト権行使を含めてつくりだすといふこと(別稿二面参照)。

第二は、国家改造計画である「革新・国家主義的政治再編」のすべての策動、とりわけ安保会議の発足、国家秘密法案の国会工程に反対し、「防衛行軍」の名による戦争遂行国家体制づくりを許さないこと。

第三は自立的な人民の諸闘争をさらに発展・強化するとともに、来年の天皇の沖繩訪問をひかえ、闘いの戦列を準備しつつある沖繩の闘いに全国各地からの連帯闘争の戦線を強めること。

第四は、八六・八七年のフリービーン・韓国情勢に革命的に対応しうる反帝・反核・反安保の闘争主体を階級的労働運動の全力量において、遅滞なく創りだすこと。とくに夏にも予想される核搭載戦艦ニュージャーシーの日本寄港に反対する闘いと皇太子夫妻の訪韓阻止の闘いは、重要な課題である。

そして第五に、国労について、全通・都市交・自治労・日教組・電通などへの組織破壊の攻撃が準備されている一方、大企業民間労働運動にたいし(われわれはこれを「二つの労働組合」と呼ぶ。右派というより右翼だ)を使った、見せしめたカラクリの中で、一月十二日の労使共同宣言を踏み絵にした統合が「イッキ、イッキ」進むという。

建党協議会からの提言

6

われわれ建党協議会は、全国の先進労働者と人民、なによりも真の社会主義革命をめざしているすべての共産主義者諸君に訴える。

今夏・秋、いかに闘うか

六月十五日を中心とした中曽根政府を倒す六月行動から同日選挙の闘いは打倒の闘いから七月六日ダブル選挙までが第一段階だ。この期間は、徹底的に、国鉄分割・民営化反対、国労潰し反対の運動をまさおこす。国鉄問題で選挙を闘う。争点は、あまりにもはっきりしている。後藤田止内閣官房長官は「選挙というものは、勝てる人の官は「選挙のためにやるのだ」と明言した。定数は正も臨時国会も解散も、みんな自民党が過半数(安定多数)をとるためである。国会憲法も完全に無視。田高問題で同日選挙をやるのは真赤なウソ、と金丸自民党幹事長は言った。田高問題を出せば東京サミットの責任を問われる。サミットで「ベーカー米財務長官の言いなりになった」ウソにはマルス疑惑がある。ぼろ大なた対借款の極秘文書をレーガン政権に握られた中曽根政府は、この点からも何があっても衆院を解散し安定多数をとらねばならなかった。ということはこれらすべてを暴露しつつ中曽根政府をわれわれの力で倒す必要がある。

問題とは、各管理層の非現実的国労組合の去就である。彼らは年齢も高く、末端の管理職であり、自分の将来を考慮して動揺もはげしい。国労十六万六千は、たしかに国鉄関係最大最強の労組であるが、動労と鉄労と足すと約五万、これに全通労と真国労の数千と前記の非現実的を加え、非現実的の国労組合員が大部分切り崩された時に、十方を越す。希望退職者が国労の中から出ていけば、いわゆる十八万三千人体制から、国労がそっくり全撤退、別排除されることさえありうる。

六月十五日を中心とした中曽根政府を倒す六月行動から同日選挙の闘いは打倒の闘いから七月六日ダブル選挙までが第一段階だ。この期間は、徹底的に、国鉄分割・民営化反対、国労潰し反対の運動をまさおこす。国鉄問題で選挙を闘う。争点は、あまりにもはっきりしている。後藤田止内閣官房長官は「選挙というものは、勝てる人の官は「選挙のためにやるのだ」と明言した。定数は正も臨時国会も解散も、みんな自民党が過半数(安定多数)をとるためである。国会憲法も完全に無視。田高問題で同日選挙をやるのは真赤なウソ、と金丸自民党幹事長は言った。田高問題を出せば東京サミットの責任を問われる。サミットで「ベーカー米財務長官の言いなりになった」ウソにはマルス疑惑がある。ぼろ大なた対借款の極秘文書をレーガン政権に握られた中曽根政府は、この点からも何があっても衆院を解散し安定多数をとらねばならなかった。ということはこれらすべてを暴露しつつ中曽根政府をわれわれの力で倒す必要がある。

七月末国労大会から、九月の国会に向けての時期が第三段階である。この期間に、国鉄問題の公聴会を政府と各自自治体の責任で開かせるのも一つの手法である。百年以上たわわって日本民衆の足となり、民衆の手を支えられてきた国鉄が、とりかえしのつかない分割を迫られている。国労のアンケータ調査でも六七割の一般国民が、民営化後の経営に対して疑問と不安を抱いている。五千人署名をバックに一大公聴会を開け。その一方で、スト

九月国会へ国鉄関連法案が上程され十一月タイヤ改正で、事実上の人員配置、選別の決着がついてしまふ。八月から九月十日が、言うまでもなく最大のヤマ場だ。

以上四段階を有効に進めていくためにも、第一段階の中曽根政府の政め方がカギになってくる。われわれは、ギリギリのところまで、建党協議会を結成した。われわれの行動の中心は、あくまでも労働者の闘争の、実践的の下支えである。政治課題は、否応なくいまも国鉄問題なのだ。

建党協に期待する

革命の入口と出口

いいだもも

発足総会の御成功おめでとうございます。はなむけのことを送ります。ひとは、「党」とは「宣伝の党」であってほなほな、というこの例にドイツ共産主義労働党をあげたい。カール・マルクスというレーニンに負けず劣らずの共産主義者に率いられたドイツ共産主義労働党のメンバーというのはいま百名に達した。それでも「党」の党にまでなると、ドイツ革命は敗北したわけだ。だから我々は長期困難というのを言いますが、組織的にはやはり、最初の入り口をくぐって、そこまでは、それを越えるものをつくらなければいけない、というところまで、思っています。

難しいだけに実りある党づくりを

伊藤 誠

私は、「ドイツ」の「党」をつくるという志についてはたいへん敬意を表しています。出来ることはお手伝いしたいと思っております。私自身は、勉強のほうで一生懸命やってきました。人間でありまして、こういう活動については、たいへん未成熟といえます。なにも知らないに等しいのですから、自分自身で、このくらいというところに関わってやるかというところは、まったく自信がありません。むしろ自分として、何らかの形でお手伝いできる事があるか、というふうに思っています。おもしろいので、この「決意」とか、その他の文章作成の過程で、意見が

とすると、あと二人なんですね。これが入口です。皆さんは、もう三名以上のメンバーでこの入り口をくぐられたわけだ。それで、一番終わりのパチスとの側が打倒される瞬間に、シエラマ

イスタの三名から始まったケリは、どういう力になったかというところ、カストロの分析によると、当時パチスタがアメリカに支援されたから革命をぶすために作っていた。この反革命組織がある。そのパチスタが打倒される直前の瞬間には、その二名の反革命組織のメンバーが全部カストロの陣営であった。とカストロが言っています。これが出口です。皆さんの御成功を期待します。

な課題を皆さんが引き受けなさる、ということだと思えます。その上で、この点ももう少し軌道に乗っていかば、世界的に一番むづかしいところだ。一番ありの活動の形態なり、思想なり、理念なりが生まれてくる可能性も同時にある、というふうに思っています。それで、それを強く期待しておきます。

在日朝鮮人の闘いに政治的指針を

S・K

党づくり運動の歴史的総括と日刊新聞を共同で

上坂喜美

私は日本人ではなく外国人です。皆さんの「決意」の中で、「在日韓民族の参加を」と書かれています。ところで、大愛感を感じています。

私には日本人ではなく外国人です。皆さんの「決意」の中で、「在日韓民族の参加を」と書かれています。ところで、大愛感を感じています。

の中においても、韓国、フィリピン、民衆の反米・反独裁・反ファシズム闘争の地平に本質的につながった経済大国日本、日本帝国主義本国における人びとのたたかひの発展に責任を明確に負う道を保証してもらいたい。これが私の願望です。

その上には、いろいろありますが「決意」が新しい観点を示しているのには、私は、心から敬意を表します。皆さんの方針の中に、学生対策がないのは、「お見限りですか」といつてみたいのですが、それはともかく、大学の状況とは別に、たとえば「クライシス」の資本論講座に、たかさんの人がお金まで出しているという状況もあります。しかも若者から老人まで。こうした現実にもあった組織方向——悲憤感、使命感、使命感、政治運動を感得すること、大切ではないですか。生マシムに使用にたけつけて生きていく人は、マルクスで、日常生活に埋没しながら、どうかで、それでいいかと思ったり、それなりに動いている人は少なくない。私のようなアラシない人も入っているような組織のあり方、多様な次元の結びつきが保障されるようなあり方があ

未明

いま何時ですか

朝ですか

夜ですか

長いあいだ睡っていた

夢のなかでも 走っていた

夢にも色がある

紫色 パラ色 赤そして緑

燃えて切りたつ涯をわたった

波頭に追われて者を駆けた

足がすくんだ 血も流れた



始 事 命

生活の中からの組織論が必要

降旗節雄

私は建党協については、いわば傍観者ですが、皆さんの気持と行動は積極的に支持し、大いに協力させていきたいと考えています。

その立場からの率直な感想ですが、提起された「決意」。努力された跡はよくわかりますが、「帝国主義論」の尺度では、切れない。「現代帝国主

義の構造と段階を、もっとシステマチックに描き出すべきでないか。この点については、私は、別に皆さんの方針に敬意を表しますが、皆さんの方針の中に、学生対策がないのは、「お見限りですか」といつてみたいのですが、それはともかく、大学の状況とは別に、たとえば「クライシス」の資本論講座に、たかさんの人がお金まで出しているという状況もあります。しかも若者から老人まで。こうした現実にもあった組織方向——悲憤感、使命感、使命感、政治運動を感得すること、大切ではないですか。生マシムに使用にたけつけて生きていく人は、マルクスで、日常生活に埋没しながら、どうかで、それでいいかと思ったり、それなりに動いている人は少なくない。私のようなアラシない人も入っているような組織のあり方、多様な次元の結びつきが保障されるようなあり方があ

ていいのではないですか。私は大学の教授として、いまのイデオロギー・思想状況はかなりのひどいものだと痛感します。皆さんの方針の中に、学生対策がないのは、「お見限りですか」といつてみたいのですが、それはともかく、大学の状況とは別に、たとえば「クライシス」の資本論講座に、たかさんの人がお金まで出しているという状況もあります。しかも若者から老人まで。こうした現実にもあった組織方向——悲憤感、使命感、使命感、政治運動を感得すること、大切ではないですか。生マシムに使用にたけつけて生きていく人は、マルクスで、日常生活に埋没しながら、どうかで、それでいいかと思ったり、それなりに動いている人は少なくない。私のようなアラシない人も入っているような組織のあり方、多様な次元の結びつきが保障されるようなあり方があ



疲れていたといわれるのですか
たしかに
あそこまで歩いていった
倒れるように
抗う睡りでした
私をよぶ声が聞こえます
もう朝になったのですか
まだ夜ですか
あの日から その日まで
生命の時間が刻んでいます
(無名)

労働者の闘いが中身

東京・津野竜思

食品労働の今年度運動方針を見てい
たら、これからは「労働組合」とい
わないで「企業人組合」といおうと書
いてあった。労働組合の存在を
認めない、と当局が公然と言うよ
うになった。労働者は存在しなくな
ったのか。とんでもない。むしろ増え
ている。女性も老人もみんな働いて
いる。未組織労働者は、ますます増える。
労働者の闘いの実践を主体にした党
をつくらう、と建設協の準備会と呼
びかけているのを知り、私は、当然の
ことだと思った。同時に、この当たり
前が、いままであまりにも言われ
ていなかった事実を、改めて感じた。
労働者が主人公になるか、労働者
が数のうえでの中心になるか、という
ことではない。労働者の闘いを軸
に、その軸の二つ二つを軸にして、党
づくりを準備しようというところが、
なんだにわかってきた。党の実態のイ
メージが少くはつきりしてきた。
中央委員会というふうなものよりも先
に、職場細胞と美学的にいえるものが
出てくる。出来たはうが、いとも
思ふようになった。

労働運動一般についていふならば、
いまは、歴史が始まって以来といつて
いからの過渡期である。しかし、い
まさらだからといって、労働者が声をあげ
て首を出し闘う、具体的な下支えにな
る覚悟をしなければならぬ。
総評を色のイメージで言ったら、グ
レイド、というアンケート調査の結果
が、総評自身、一般市民をいれた調
査でわかったこと。
灰色の労働運動のなかで、ピカッと
光る闘いを無数につくり出す。
建設協の目的でも夢である。
二〇世紀は、革命と戦争の世紀であ
り、あと十数年で終わるとしている。
建設協を準備する一人一人にとっては、
それだけに今世紀最後の仕事になるじ
やないか。一人一人の人生にとっても、おそく
最後のチャンスになるだろう。党なん
てものは、そこかたんに出来るもの
ではない。

嵐に起つ

九州地方協 萩原 佳枝

いよいよ新しい革命の党の創造へむ
けた第一歩がふみだされたことを、と
女性解放と階級
闘争の結合を

日本

いいわけしない 共産主義者に

大阪地方協 中田 真船

五月に建設協総会が開かれました。
私は決意を新たに参加しました。
今までの会議とは違ったような感
じを受けました。どこが具体的に
導くのかという事については……
四十数年の自己生活を振り返りながら
参加していると、議題が進むにつれて
なんだか胸が痛くなったり、目がら
が熱くなったりしました。ああ、やっ
とこまぎたのかという気持ちと、こ
れからだなあ、という気持ちが入り
まじって複雑でした。私は最も敬心
に残っているのは、本党に大切な事
は「政治生命」ではなくて「生命その
もの」をかけた闘っている人がいるん
ですよ、という話を聞いた時です。
「政治生命」ではなくて「生命その
もの」か、という事を何度か何度も
振り返り自分自身に問かれました。そ
うしているうちに、二日間の総会が終
りました。

時代状況に対応

東京・川端 信二

私は総会を通じて決意を新たにしま
した。いいわけをしない共産主義
者になろう。今後、いろいろな事が
あると思いますが、いいわけをし
ないで頑張り抜けば自らも共産主義者
になれる。労働者階級の解放、人間解放
ひいては平和を信じています。ともに
がんばりましょう。

建党を労働者 の任務に

郵政労働者 谷川 清

このままならつづくに長すぎた気
もするし、過去の生きたを整理しつ
つ、新たなものをつくりだす準備期間
としては短かすぎたかという気もす
る。
だが、ともかく、戦争と革命の歴史
的大転換期にさしかかっている今日、
世界と日本の共産主義運動の歴史的総
括を通して、共産党や新左翼諸派を
越えられる革命党の建設が急務となっ
ていることは明白である。
とりわけ、日本帝国主義の社会的支
柱の一つとして登場してきた全労協

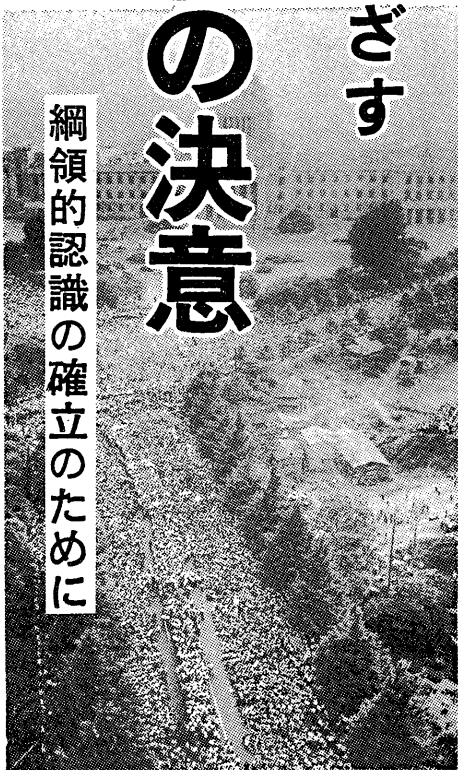
なつたとき。二回目は一九四九年(昭
和四年)日本国有鉄道で国鉄公社
になったとき。前者では、四十三万人
後者では九万五千人の首切りがあった
のですが、その時期は、日露戦争に日
本が勝利し、早々と世界の列強の一つ
にせり上った転回点、朝鮮戦争の前夜
つまり日米安保体制がつけられる時点
と重なっていました。
教育も明治五年に近代学制が敷かれ
てから、何度かの教育改革がありまし
たが、そのうち「上諭つき」、つまり
天皇のお墨付きの臨教書(今日流にい
って)の設置は一回。最初は一九一七
年(大正六年)の寺内内閣。二回目は
一九三七年(昭和十二年)の近衛内閣
の時でした。一九一七年がロシアで革
命が勝利し、日本が世界大戦の勝利国
としていよいよアジア侵略の足固めを
した時であり、三十七年が中国への全面
侵略開始の年だったのは忘れることが
できません。しかも昭和十二年に
議院が成立したのが、今日の国家秘密
法(原型ともいえる軍機保護法です。
この国の、少なくとも人民の立場、
アジア民衆の立場からみて危険な針路
への転換のとき起きたことが、昨年
から今年にかけて、私たちの前にワン
セットのように出てきている。このこ
のもつ意味と重大性を本心に考えてみ
たいのです。それはたんに歴史の偶然
ではないのでしょうか。
私たち共産主義者は、己れの志を自
覚し、自負もするのですが、情況の動
き本心に対応しきれず、志を誇っ
てみるだけでは、極論するとソソク
の役にも立たないといえます。
今日の時代状況はその意味で、私た
ち一人ひとりの決意を問うており、試
練として迫っていると思います。建
協の発足とそれへの私の参加が何であ
るかは、これからの仕事で評価するこ
とでしょうが、客観的には、この歴史
的転換への不可避なわれわれの対
応だと考えています。力を重ねてい
きましょう。

世界から
民衆連帯のための季刊誌
No.26 1986夏
特集I
フィリピン人民は
革命の深化をめざす
特集II
中米・
低強度戦争の実像
〈韓国レポート〉張白山・他
定価850円(送料別)
年間購読料3200円(送料共)
アジア太平洋資料センター
(PARC)
東京都千代田区神田神保町
1-30 電話 03-291-5901
1-30 電話 東京6-163403

**たたかいの
ネットワーク
労働情報**
定価250円/月2回刊(1.15)
発行人 市川 誠
編集人 前田裕昭
労働情報編集委員会
東京都港区新橋4-21-7
加藤ビル2F
03-433-0375
定購購読料 年間6,960円
半年3,480円(送料共)
読者拡大キャンペーン中
Do you know RJ?

日本革命をめざす

われわれの決意



網領的認識の確立のために

1980年6月、30数万人の人々が日米安保反対を掲げ国会を包囲。

近代史上これまでの資本主義社会は、資本の蓄積様式の種類によって、まず商人資本を基軸とする重商主義的世界編成と、次に産業資本を基軸とする自由主義的世界編成、そして現在、金融資本を基軸とする帝国主義的世界編成という歴史的発展をたどってきた。

現代とは、資本主義の最新・最高・最後の発展段階としての帝国主義の時代であり、それがもたらした第一次世界大戦とソビエト・ロシア革命を起点とする、きわめて力動的な世界史的過程にほかならぬ。

ここに、公表される二つの文書——『日本革命をめざすわれわれの決意』と『組織テーゼ(案)』提出にあたって、建党協議会発足において案文として、決定されたものです。私たちの真意は、単に、この二つの文書への賛否を問うというよりは、これを「日本革命の網領的認識の確立のため」の一つの提案、素材として協議し、共産主義者の大合流の道を、新しいレベルと方法で切り拓いてゆきたいということであり、へつに明らかになっていることと、建党協議会発足は、閉ざされたものではなく、ますます開いてゆき、全国の志ある人々の協議の輪をひろげてゆく新しい建党運動の本格的開始を意味するものです。私たちは、そうした本格的なよりまとまった建党運動の節目として、今秋第一回総会開催を決定しています。

この二つの文書は、当然のこと、完成されたものでなく、全国の志ある人々との創意と熱あふる協議の輪の中で、より豊かに深められるべきものであります。したがって私たちは、この二つの文書の協議をより開いたものとして、意見の対立、異見をかくさずおこないたいと考えています。この主旨にたつて、末尾の「二文書についての補足」は公表されるものであります。

ア・太平洋に移行し、アメリカ帝国主義とともに、わが国が世界資本主義の危機と再編の中軸になっているだけに、わが国での革命主体形成の課題はいよいよ急務である。それは発展を遂げつつあるアジア・第三世界の国際テロラリアーと被抑圧民族の革命の成否とも、ふかかかわっている。

この歴史的使命の達成にすすむ自覚と決意をもって、われわれは、歴史回天の事業、日本革命をめざして新しい出発をする。だがその責任は、日本の共産主義者・革命的労働者すべてのものであり、事がわれわれだけで成し遂げるものとは思っていない。歴史的使命をなすべく、革命的同志の力を志を一つにする。

ア・太平洋に移行し、アメリカ帝国主義とともに、わが国が世界資本主義の危機と再編の中軸になっているだけに、わが国での革命主体形成の課題はいよいよ急務である。それは発展を遂げつつあるアジア・第三世界の国際テロラリアーと被抑圧民族の革命の成否とも、ふかかかわっている。

第一章 日本資本主義と労働者階級

(一) 明治維新に際しては、日本資本主義は、何回かのアジア侵略戦争を介して、第二次世界大戦の敗北と米軍の占領を一つの契機にして発展し、今日では、世界の帝国主義体制の柱の一つとして、国際革命の端となつてゐる。

戦後日本資本主義の高度成長は、産業構造・労働構成・消費様式を一新し、大衆の生活と意識を大きく変えた。現代日本資本主義は、その高蓄積・生産水準を背景に、第三世界を収奪し、モノの豊かさを、さまざまなイデオロギーによって、大衆の不満を吸収することに一応成功している。階級闘争も革命も、社会主義も、無用といわばかりの風潮

それは、この社会が、ひたすら利潤を追求する資本の支配する社会であり、資本の効率主義や他人をけちらす競争原理の物質と所得の数字の高さを指標とする価値観が、万力のもとに、人びとを縛りつけてくるからである。また資本のイデオロギーと、企業と国家への帰属意識に労働者が同化させられ、誇りと魂を奪われているからである。それは、資本家階級の手に生産手段が排他的に所有されている資本制社会の基本構造に由来する。万悪の根は資本主義にあり、そのもとでは、富める者は、ますます富み、貧しい者は、開かないかぎりますます暮られていく。

それは、この社会が、ひたすら利潤を追求する資本の支配する社会であり、資本の効率主義や他人をけちらす競争原理の物質と所得の数字の高さを指標とする価値観が、万力のもとに、人びとを縛りつけてくるからである。また資本のイデオロギーと、企業と国家への帰属意識に労働者が同化させられ、誇りと魂を奪われているからである。それは、資本家階級の手に生産手段が排他的に所有されている資本制社会の基本構造に由来する。万悪の根は資本主義にあり、そのもとでは、富める者は、ますます富み、貧しい者は、開かないかぎりますます暮られていく。

(二) 戦後の日本資本主義は、史上かつてないほどの経済発展を、世界に類をみないテンポでなし、いま世界「最大の資本供給国」の位置にたつ帝国主義国になった。この急速な発展のなかに、矛盾の成熟があり、破綻の契機ももたらしている。また歴史的な特質に因る構造的な弱点が横たわっている。

日本資本主義は明治以来、つねに天皇制国家が主導し、その初期からアジアの諸国を侵略し、広い地域を略奪・併合し、戦争を契機に肥えふとってきた。第二次大戦後も、アメリカ帝国主義の朝鮮侵略やベトナム侵略に寄生・協力してアジア人民を収奪し、その血の犠牲の上に成長を実現してきた。戦後のアメリカ帝国主義がみずから挑んだ戦争が、二つともアジアを舞台にしたことの意味は大きい。そして今、中国を取りこみ、ソ連と対抗し、アジア反革命統合の中軸になっている。だから日本は全アジア人民の敵となり、孤立を深めている。アジアに位置する日本の革命は、フィリピン・韓国・中国の革命、中国の革命、その他の東アジア革命のなりのきと深く関連している。

またその経済発展は、近代的なものに連帯的なもの、大企業と中小零細企業との二重構造、工農間の不均衡な、重層的な差別構造を再生産しつつあることでも確認されている。さらに資本輸出と多国籍企業の相互浸透という体制を通じて、第三世界の労働者と自然を犠牲にするものであり、人びとの生活の質を低下させている。

現代日本資本主義は、国家と独占資本が優勢な国家独占資本主義である。独占資本主義の超過利潤は、生産過程だけでなく、非独占の資本運動と民衆の消費過程の全体を独占支配し、国家財政が人民から収奪しているを独占に注ぎこむことで確保されている。さらに資本輸出と多国籍企業の相互浸透という体制を通じて、第三世界の労働者と自然を犠牲にするものであり、人びとの生活の質を低下させている。

現代日本資本主義は、国家と独占資本が優勢な国家独占資本主義である。独占資本主義の超過利潤は、生産過程だけでなく、非独占の資本運動と民衆の消費過程の全体を独占支配し、国家財政が人民から収奪しているを独占に注ぎこむことで確保されている。さらに資本輸出と多国籍企業の相互浸透という体制を通じて、第三世界の労働者と自然を犠牲にするものであり、人びとの生活の質を低下させている。

現代日本資本主義は、国家と独占資本が優勢な国家独占資本主義である。独占資本主義の超過利潤は、生産過程だけでなく、非独占の資本運動と民衆の消費過程の全体を独占支配し、国家財政が人民から収奪しているを独占に注ぎこむことで確保されている。さらに資本輸出と多国籍企業の相互浸透という体制を通じて、第三世界の労働者と自然を犠牲にするものであり、人びとの生活の質を低下させている。

現代日本資本主義は、国家と独占資本が優勢な国家独占資本主義である。独占資本主義の超過利潤は、生産過程だけでなく、非独占の資本運動と民衆の消費過程の全体を独占支配し、国家財政が人民から収奪しているを独占に注ぎこむことで確保されている。さらに資本輸出と多国籍企業の相互浸透という体制を通じて、第三世界の労働者と自然を犠牲にするものであり、人びとの生活の質を低下させている。

運動の指導部は、国家の支配組織の一部に属した現代修正主義がすべての運動を平和と民主主義の擁護の枠内におしこめ、改良主義と民族排外主義をひろめ人民の闘いの先が資本主義にむかわらないように動いている。

(二) 戦後の日本資本主義は、史上かつてないほどの経済発展を、世界に類をみないテンポでなし、いま世界「最大の資本供給国」の位置にたつ帝国主義国になった。この急速な発展のなかに、矛盾の成熟があり、破綻の契機ももたらしている。また歴史的な特質に因る構造的な弱点が横たわっている。

日本資本主義は明治以来、つねに天皇制国家が主導し、その初期からアジアの諸国を侵略し、広い地域を略奪・併合し、戦争を契機に肥えふとってきた。第二次大戦後も、アメリカ帝国主義の朝鮮侵略やベトナム侵略に寄生・協力してアジア人民を収奪し、その血の犠牲の上に成長を実現してきた。戦後のアメリカ帝国主義がみずから挑んだ戦争が、二つともアジアを舞台にしたことの意味は大きい。そして今、中国を取りこみ、ソ連と対抗し、アジア反革命統合の中軸になっている。だから日本は全アジア人民の敵となり、孤立を深めている。アジアに位置する日本の革命は、フィリピン・韓国・中国の革命、中国の革命、その他の東アジア革命のなりのきと深く関連している。

またその経済発展は、近代的なものに連帯的なもの、大企業と中小零細企業との二重構造、工農間の不均衡な、重層的な差別構造を再生産しつつあることでも確認されている。さらに資本輸出と多国籍企業の相互浸透という体制を通じて、第三世界の労働者と自然を犠牲にするものであり、人びとの生活の質を低下させている。

現代日本資本主義は、国家と独占資本が優勢な国家独占資本主義である。独占資本主義の超過利潤は、生産過程だけでなく、非独占の資本運動と民衆の消費過程の全体を独占支配し、国家財政が人民から収奪しているを独占に注ぎこむことで確保されている。さらに資本輸出と多国籍企業の相互浸透という体制を通じて、第三世界の労働者と自然を犠牲にするものであり、人びとの生活の質を低下させている。

現代日本資本主義は、国家と独占資本が優勢な国家独占資本主義である。独占資本主義の超過利潤は、生産過程だけでなく、非独占の資本運動と民衆の消費過程の全体を独占支配し、国家財政が人民から収奪しているを独占に注ぎこむことで確保されている。さらに資本輸出と多国籍企業の相互浸透という体制を通じて、第三世界の労働者と自然を犠牲にするものであり、人びとの生活の質を低下させている。

現代日本資本主義は、国家と独占資本が優勢な国家独占資本主義である。独占資本主義の超過利潤は、生産過程だけでなく、非独占の資本運動と民衆の消費過程の全体を独占支配し、国家財政が人民から収奪しているを独占に注ぎこむことで確保されている。さらに資本輸出と多国籍企業の相互浸透という体制を通じて、第三世界の労働者と自然を犠牲にするものであり、人びとの生活の質を低下させている。

現代日本資本主義は、国家と独占資本が優勢な国家独占資本主義である。独占資本主義の超過利潤は、生産過程だけでなく、非独占の資本運動と民衆の消費過程の全体を独占支配し、国家財政が人民から収奪しているを独占に注ぎこむことで確保されている。さらに資本輸出と多国籍企業の相互浸透という体制を通じて、第三世界の労働者と自然を犠牲にするものであり、人びとの生活の質を低下させている。

なぜ党か いかなる党か

(一) 党の必要性

階級闘争があるところ、そこには必ず階級を代表する党がある。敵もそうであり、味方もそうである。

敵があり、敵の党があり、支配階級がその党を先頭に、国家権力をにぎり、人民大衆を支配・抑圧し、搾取・収奪していき、人民大衆が無防備で、無組織で、戦闘隊形なしでいることはできない。階級闘争が存在し、階級矛盾の根本的解決が革命であり、それが支配階級の独裁の覆滅であるなら、その革命の全過程を指導する党なしに、革命の勝利と大衆の解放はあり得ない。革命はそれを意識的に担う主体なくして実現せず、革命をやるからには、革命党とその指導が必要である。

(二) 党の道具性

革命とは、幾千万大衆の行動である。だが大衆は、党なくして、社会を革新することはできず、それは人間が道具なくして、自然を改造することができないのと同じである。

党は無前提・無媒介に真理の体現者ではなく、党を名で自動的・先験的に前衛的なものではない。道具の主人は人間であり、革命の主人公は大衆である。すべて道具なるものに唯一絶対性はない。人間の上にそれを置けるものはない、役に立たなくなった道具は捨てるよりほかはない。役に立たなくなった党はつぶし、新たな党を創るよりほかはない。

(三) 党の指導性

道具が自然に成るものではなく、人間が創りだすものであるように、党は、それを志す者が、自覚的・意識的に創造するものである。

(四) 党の組織性

人民大衆は、さまざまな組織を形成して生活し、闘争しているが、そのなかで党は、もっぱら権力をめぐる闘いのための組織である。現実の個別的な矛盾を促進されて発生する大衆運動・大衆闘争を、根本矛盾の解決のための闘争に高めるのが党であり、党は最高の道具である。

(五) 政治・思想路線

われわれの世界観は、共産主義である。現日本における革命党とは、最高度に発達した大衆独占資本主義が支配する

帝国主義国家において、社会主義革命を課題とする党である。それはブルジョア階級の独裁を打倒し、資本主義を廃絶し、プロレタリアートの独裁を樹立する党である。それは労働階級と被抑圧人民の党であり、一切の横断階級と闘う階級階級の党である。われわれは、マルクス・レーニン・毛沢東の内外のすぐれた共産主義運動の諸先達思想を継承し、創造的に発展させ、日本の革命的伝統に学び、国際主義の観点に立ち、自主・自力で日本の社会主義革命の路線をきり拓く。

(六) 階級の基礎と性格

党は労働階級とすべての被抑圧・被差別人民の先天的分子によって構成される。その活動の中心は、社会主義的労働運動の結核である。

(七) 党の矛盾

矛盾のない一枚岩の党なるものは存在しない。党に本来内在する階級性と道具性、前衛性と大衆性の矛盾は、党外階級階級に映現され、左右の日和見主義の対立をはたき、さまざまな党内矛盾となる。党が生きて闘っている以上、あれこれの矛盾はかならず発生する。これにたいして、物理的・暴力的解決を図るようなことは論外であり、差異と異論をむしろ相互発揚に委ね、それを党の発展の契機にするべきである。必要に応じてたんなる形式的な統一ではなく、自中心主義・セクト主義を排し、たがいの試練と結核を共有し、共同の業績と相互批判・自己批判のなかで、大衆の信頼を受けながら自己革命をすすめる。たゞ階級の利益階級の統一に力になるやり方で

(八) 組織原則—民主集中制

党の組織原則は民主集中制である。徹底したプロレタリア民主主義により、全員の積極性と創造性を高め、全体の意志と行動の統一をはかり、血のかかった有機体として、規律もあれば自由もあり、結束し、機動的な戦闘部隊を構成する。機関紙・誌を中心に、強力な宣伝・啓蒙の機能をもち、

(九) 基本組織—中央委員会

党の基本組織は、中央委員会と細胞である。それが中核と基礎である。すべての党員はかならず何らかの細胞に所属して、党活動の組織的・物質的に発展させる主体となる。

(十) 党の幹部

党と革命の前進にとって幹部の役割はきわめて大きい。党は職業革命家の育成に努める。しかし党は、幹部と職業革命家の利害を中心に運営されてはならない。

(十一) 合法・非合法

党は最大限に公然たる活動を展開するが、ブルジョア民主主義の支配にまみれられてはならず、階級の警戒心を強め、あらゆる攻撃にそなえ、勢力を秘密・温存し、公然・非公然、合法的と非法的など、さまざまな活動形態に習熟し、剛毅果敢に闘い、柔軟・円滑に活動を展開する。

(十二) 工作原則—大衆路線

党の工作の原則は、「大衆のなかから大衆のなかへ」という大衆路線である。大衆と結合し、大衆から学び、大衆の自立と前進のために献身することで、大衆を鍛え指導する。

(十三) 反官僚・反セクト

党は、これまでの党が必ずもった前衛階級主義、党の神格化、指導者への個人崇拜、またプロレタリア独裁を党独裁や個人独裁に変質させる思想・方針と断固として闘う。これは意識的な努力を必要とするところである。

(十四) 作風

党は共産主義者の自覚的・同志的結合であり、政治的に平等である。党内に支配・被支配の関係を認めず、党内の指導は機関の上下や権威の力ではなく、思想の内容と路線の正しさに依拠する。党内にはいかなる特権もない。このことと責任の重さ個人差による特定の処遇・配属があることは別の問題であり、平均主義の愚平等に陥ってはならない。理論と実践を結合し、党組織に支えられた自分の自覚と責任において、大衆の中心行動とともに、さまざまな理論的・政治的・学問的・実践的課題をすすめる。

思想統合を深めることである。

(十五) 過渡的課題—統合

階級階級の活動により、労働者大衆を奮起させ、生産点を革命の場と変える闘いによって、資本の支配をその土台から根絶し、下から権力を倒す契機をつくることである。

(十六) 党の活動

党は、大衆の頭脳の中にあるブルジョア的価値観を掃蕩するため、新しい価値観を鼓吹し、人民の諸闘争を広め知らす。機関紙・誌を中心に、強力な宣伝・啓蒙の機能をもち、

(十七) 党の活動

党は、これまでの党が必ずもった前衛階級主義、党の神格化、指導者への個人崇拜、またプロレタリア独裁を党独裁や個人独裁に変質させる思想・方針と断固として闘う。これは意識的な努力を必要とするところである。

(十八) 党の活動

党は、これまでの党が必ずもった前衛階級主義、党の神格化、指導者への個人崇拜、またプロレタリア独裁を党独裁や個人独裁に変質させる思想・方針と断固として闘う。これは意識的な努力を必要とするところである。

(十九) 党の活動

党は、これまでの党が必ずもった前衛階級主義、党の神格化、指導者への個人崇拜、またプロレタリア独裁を党独裁や個人独裁に変質させる思想・方針と断固として闘う。これは意識的な努力を必要とするところである。

(二十) 党の活動

党は、これまでの党が必ずもった前衛階級主義、党の神格化、指導者への個人崇拜、またプロレタリア独裁を党独裁や個人独裁に変質させる思想・方針と断固として闘う。これは意識的な努力を必要とするところである。

(二十一) 党の活動

党は、これまでの党が必ずもった前衛階級主義、党の神格化、指導者への個人崇拜、またプロレタリア独裁を党独裁や個人独裁に変質させる思想・方針と断固として闘う。これは意識的な努力を必要とするところである。

(二十二) 党の活動

党は、これまでの党が必ずもった前衛階級主義、党の神格化、指導者への個人崇拜、またプロレタリア独裁を党独裁や個人独裁に変質させる思想・方針と断固として闘う。これは意識的な努力を必要とするところである。

(二十三) 党の活動

党は、これまでの党が必ずもった前衛階級主義、党の神格化、指導者への個人崇拜、またプロレタリア独裁を党独裁や個人独裁に変質させる思想・方針と断固として闘う。これは意識的な努力を必要とするところである。

一文書についての補足

建設協定総会は、準備会が提案した「一文書」について討議し、それを建設活動の基礎におくことを場場一致で決定した。同時に協議会の中で、外から活発に論議を重ねるとともに、外からも積極的な批判と提議をうけるよう呼びかけていくことを確認した。

① 文章の調子

文章の調子、表現は労働者の性格が強い。最終的にはもっとも平易な書き方にするべきである。また美観の重要性を原案以上に強調したい。

② 世界史と革命の連続性

世界史と革命の連続性の重要性を原案以上に強調したい。

③ 階級階級の活動

階級階級の活動の重要性を原案以上に強調したい。

階級階級の活動の重要性を原案以上に強調したい。

(十四) 作風

党は共産主義者の自覚的・同志的結合であり、政治的に平等である。党内に支配・被支配の関係を認めず、党内の指導は機関の上下や権威の力ではなく、思想の内容と路線の正しさに依拠する。党内にはいかなる特権もない。このことと責任の重さ個人差による特定の処遇・配属があることは別の問題であり、平均主義の愚平等に陥ってはならない。理論と実践を結合し、党組織に支えられた自分の自覚と責任において、大衆の中心行動とともに、さまざまな理論的・政治的・学問的・実践的課題をすすめる。

(十五) 過渡的課題—統合

階級階級の活動の重要性を原案以上に強調したい。

(十六) 党の活動

党は、これまでの党が必ずもった前衛階級主義、党の神格化、指導者への個人崇拜、またプロレタリア独裁を党独裁や個人独裁に変質させる思想・方針と断固として闘う。これは意識的な努力を必要とするところである。

(十七) 党の活動

党は、これまでの党が必ずもった前衛階級主義、党の神格化、指導者への個人崇拜、またプロレタリア独裁を党独裁や個人独裁に変質させる思想・方針と断固として闘う。これは意識的な努力を必要とするところである。

(十八) 党の活動

党は、これまでの党が必ずもった前衛階級主義、党の神格化、指導者への個人崇拜、またプロレタリア独裁を党独裁や個人独裁に変質させる思想・方針と断固として闘う。これは意識的な努力を必要とするところである。

(十九) 党の活動

党は、これまでの党が必ずもった前衛階級主義、党の神格化、指導者への個人崇拜、またプロレタリア独裁を党独裁や個人独裁に変質させる思想・方針と断固として闘う。これは意識的な努力を必要とするところである。

(二十) 党の活動

党は、これまでの党が必ずもった前衛階級主義、党の神格化、指導者への個人崇拜、またプロレタリア独裁を党独裁や個人独裁に変質させる思想・方針と断固として闘う。これは意識的な努力を必要とするところである。

(二十一) 党の活動

党は、これまでの党が必ずもった前衛階級主義、党の神格化、指導者への個人崇拜、またプロレタリア独裁を党独裁や個人独裁に変質させる思想・方針と断固として闘う。これは意識的な努力を必要とするところである。

(二十二) 党の活動

党は、これまでの党が必ずもった前衛階級主義、党の神格化、指導者への個人崇拜、またプロレタリア独裁を党独裁や個人独裁に変質させる思想・方針と断固として闘う。これは意識的な努力を必要とするところである。

二、当面する一時期の組織活動の準則

(一) 闘争の中で「綱領」を育て、獲得しよう！
(二) 全国政治新聞の共同発行とネットワークを！
(三) 強力な工場・地域における細胞の準備を！
(四) 全国主要地方に創造的拠点！
(五) 全国共産主義者の大きな統合・合流を！
(六) プロレタリアートを主人公とする建党運動の成功を！

基礎を置く歴史的に特異な階級社会にはかならない。そのようなものとして、国民国家に結核された市民ブルジョア社会は、最後の階級社会としての人類史上の位置を占めていく。幾千年にもわたって闘いつづけてきた階級闘争の歴史は、そこにおいて、共産主義へ向かっての自己解放か、人類の共滅かを賭してこの闘いぬかれざるをえないのである。

① 世界史と革命の連続性

世界史と革命の連続性の重要性を原案以上に強調したい。

② 階級階級の活動

階級階級の活動の重要性を原案以上に強調したい。

③ 階級の教育

階級の教育の重要性を原案以上に強調したい。

④ 階級の教育

階級の教育の重要性を原案以上に強調したい。